

平成23事業年度決算の概要について

このたび、平成23事業年度(第8期)の財務諸表並びに決算報告書等が、平成24年9月26日付けで文部科学大臣に承認されましたので公表いたします。

財務諸表は企業会計原則に基づきながら、国立大学法人の特性を配慮した「国立大学法人会計基準」などに則り作成しております。

なお、上記会計基準及びその実務指針等の一部改訂、文部科学省の指定等により、会計方針や財務諸表附属明細書の様式を一部変更しております。

平成23事業年度 財務状況について

(単位:百万円)

	22年度	23年度	対前年度比		22年度	23年度	対前年度比
(資産の部)				(負債の部)			
固定資産	150,222	146,563	△ 3,659	固定負債	33,310	30,062	△ 3,248
有形固定資産	150,035	145,746	△ 4,289	資産見返負債	5,327	5,386	59
土地	87,536	87,536	0	センター債務負担金	26,868	24,027	△ 2,841
建物	51,914	49,578	△ 2,336	その他固定負債	1,114	648	△ 466
構築物	238	200	△ 38	流動負債	14,932	14,886	△ 46
工具器具備品	9,356	7,303	△ 2,053	運営費交付金債務	432	572	140
その他有形固定資産	990	1,126	136	寄附金債務	2,768	2,825	57
無形固定資産	164	198	34	一年以内センター債務負担金	3,659	3,507	△ 152
投資その他資産	22	619	597	未払金	5,784	6,097	313
流動資産	14,958	15,515	557	その他流動負債	2,287	1,883	△ 404
現金及び預金	8,976	7,306	△ 1,670	負債合計	48,242	44,949	△ 3,293
未収附属病院収入	4,846	5,090	244	(純資産の部)			
その他未収入金	178	191	13	資本金	75,956	75,956	0
有価証券	300	2,400	2,100	資本剰余金	21,565	19,474	△ 2,091
医薬品及び診療材料	594	482	△ 112	利益剰余金	19,415	21,699	2,284
その他流動資産	63	44	△ 19	純資産合計	116,938	117,130	192
資産合計	165,180	162,079	△ 3,101	負債・純資産合計	165,180	162,079	△ 3,101

【財務状況】

財務状況全般につきましては財務諸表に記載のとおりです。

今期の資産合計は約1,620億円となっており、前年度比約31億円の減少となっております。

その主な要因として固定資産が約36億円減少しておりますが、これは建物や工具器具備品等の減価償却の進行により有形固定資産が約42億円減少していること及び投資有価証券を購入したことにより投資その他資産が約6億円増加したことによるものです。

また流動資産が約5億円増加しておりますが、主な要因として資金運用のため有価証券を購入したことにより21億円の増加となったこと及び有価証券の購入等により現金が約16億円減少したことによるものです。

今期の負債合計は約449億円となっており、前年度比約32億円の減少となっております。

その主な要因として借入金の返済により国立大学財務・経営センター債務負担金が約29億円減少したことによるものです。

上記資産と負債の差額が純資産となっており、今期は約1,171億円となっております。

平成23事業年度 運営状況について

(単位:百万円)

費 用	22年度	23年度	対前年度比	収 益	22年度	23年度	対前年度比
経常費用	49,182	50,303	1,121	経常収益	51,386	52,581	1,195
人件費	20,903	21,578	675	運営費交付金収益	15,222	15,254	32
物件費	27,146	27,762	616	学生納付金収益	1,404	1,273	△ 131
教育・研究・支援経費	5,459	4,715	△ 744	附属病院収益	27,636	29,020	1,384
診療経費	18,582	19,864	1,282	施設費・補助金等	1,519	1,223	△ 296
受託研究・事業経費	2,015	2,257	242	雑収入	1,203	1,167	△ 36
一般管理費	1,088	924	△ 164	受託研究収益等	2,017	2,259	242
財務費用等	1,132	962	△ 170	寄附金収益	1,215	1,148	△ 67
				資産見返負債戻入	1,166	1,234	68
臨時損失	30	59	29	臨時利益	26	64	38
当期総利益	2,540	2,283	△ 257	目的積立金取崩額	341	0	△ 341

今期は国立大学法人化して第8期事業年度となります。今期の事業規模は前期と比較し約2%(約11億円)ほど拡大いたしました。これは主に、国や民間からの競争的資金獲得による事業の拡大、附属病院収益の増加に伴う診療経費の増加などによるものです。

運営状況につきましては、損益計算書では経常費用が503億円、経常収益が525億円となっており、この差額が経常利益として22億円となっております。

経常利益から、臨時損失、臨時利益及び目的積立金取崩額を加算すると、当期総利益が22億円となります。この当期総利益には、国立大学法人における固有の会計処理による「非資金的項目」が含まれており、資金を伴う利益は約1.7億円です。この資金を伴う利益は、病院収入その他の業務収入の増加、効率的な事業実施の実現による経費の削減など、経営努力によるものです。

【費用】

経常費用は、人件費が約43%、物件費が約55%、財務費用(借入金の支払利息等)が約2%という構成比率となっております。

人件費は、今期総額で約215億円が計上され、前年度比約6億円の増額(前年比約3%増)となっております。

物件費は、総額約277億円で、前年度比約6億円の増額(前年比約2%増)となっております。

これらは主に附属病院収益が増加したこと及び競争的資金の獲得により事業規模が拡大したこと等によるものです。

借入金にかかる支払利息は償還計画のとおり約9億円で、前年度比約2億円減少しております。

【収益】

経常収益は、運営費交付金などの国費が約31%、自己収入が約60%、外部資金が約6%、資産見返負債戻入が約3%という構成比率となっております。

国費には運営費交付金収益、施設費収益及び補助金収益が該当し、今期は総額約164億円、前年比約3億円の減額(前年比約2%減)となっております。

主な減額要因としては、補助金収益が約2億円、施設費収益が約1億円減額したことによるものです。

自己収入には、学生納付金収益(授業料収益、入学料収益、検定料収益)、附属病院収益、雑収入(財務収益、雑益)が該当し、今期は総額314億円で前年比約12億円の増額(前年比約4%増)となっております。

主な増額要因としては附属病院収益の増額(約13億円)及び、授業料を財源とした固定資産取得による授業料収益の減額(約1億円)によるものです。

外部資金は、受託研究等収益、受託事業等収益、寄附金収益が該当し、今期は総額約34億円で前年比約2億円の増額(前年比約5%増)となっております。

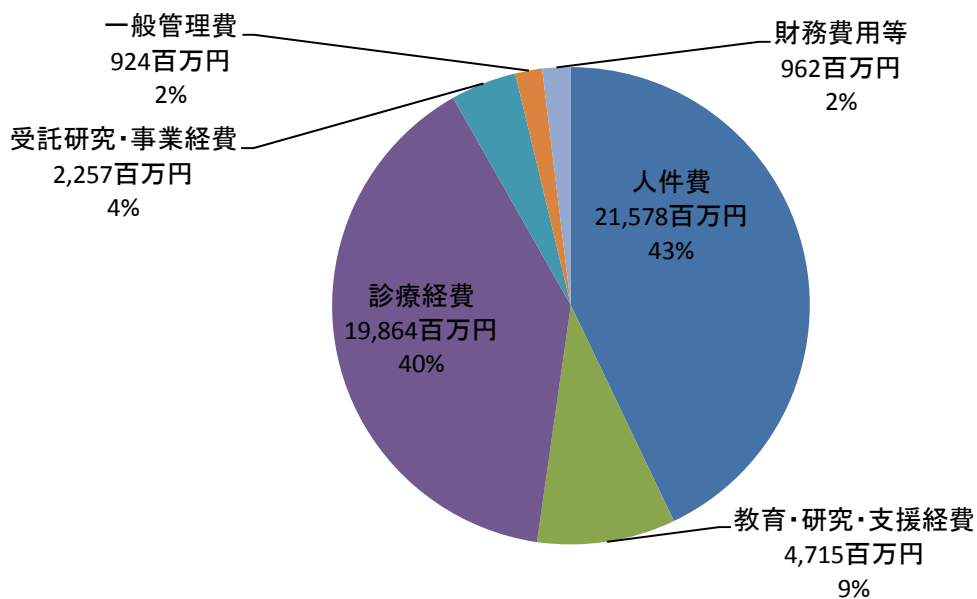
● 当期総利益の主な要因

【資金の裏づけがあるもの】 1.7億円
 病院収入その他の業務収入の増や効率的な事業の実施による経費削減によるもの

【資金の裏づけがないもの(国立大学法人会計基準に基づく固有の会計処理など構造的な要因によるもの)】 21億円

- ・附属病院に関する借入金償還額と減価償却費差額
- ・自己収入財源で取得した資産と減価償却費差額
- ・継承医療機器にかかる資産見返物品受贈額戻入
- ・附属病院収入等の未収入金分 など

経常費用 50,303百万円



経常収益 52,581百万円

